

**国家的に重要な研究開発  
「最先端・高性能汎用スーパーコンピュータの開発利用」（文部科学省）  
の事後評価について（案）**

平成 25 年 5 月 13 日  
評価専門調査会

## 1. 事後評価の実施について

総合科学技術会議が事前評価を実施した研究開発については、「総合科学技術会議が実施する国家的に重要な研究開発の評価について」（平成 17 年 10 月 18 日総合科学技術会議決定。以下、「評価に関する本会議決定」という。）において、当該研究開発が終了した翌年度に事後評価を行うこととされている。

以下の研究開発が平成 24 年度をもって終了したことから、事後評価を実施することとする。評価は、評価専門調査会が調査・検討を行い、その結果を受けて総合科学技術会議で決定することとする。

## 2. 評価対象

「最先端・高性能汎用スーパーコンピュータの開発利用」【文部科学省】

### ＜研究開発概要＞

本研究開発は、スーパーコンピューティング分野において、今後とも我が国が世界をリードし、科学技術や産業の発展を牽引し続けるために、Linpack<sup>注1)</sup>で 10 ペタ FLOPS<sup>注2)</sup>を達成する次世代スーパーコンピュータの開発、スーパーコンピュータを最大限活用するためのソフトウェア等の開発・普及、及び、これを中核とする世界最高水準のスーパーコンピューティング研究教育拠点の形成を行い、研究水準向上と世界をリードする創造的人材の育成を総合的に推進するものである。

なお、本プロジェクトは平成 18 年度から開始し、平成 22 年度にシステム稼働、最終的に平成 24 年度の完成を目指し進められてきた。

注 1) Linpack : 主に中央処理機構 (CPU) の計算性能を比較する目的で作られたベンチマークテストの一つであり、線形方程式を解く速度を測定するもの。

注 2) FLOPS: Floating-Point Operations Per Second  
1 秒間に浮動小数点演算が何回できるかという能力を表した値のこと。コンピュータの性能指標の一つ。

<実施期間> 平成 18 年度～平成 24 年度

<予算額> ○国費総額 約 1111 億円

<総合科学技術会議における評価の経緯>

○事前評価： 平成 17 年 11 月 28 日 (総合科学技術会議決定)

○事前評価のフォローアップ：  
平成 18 年 10 月 5 日 (評価専門調査会)

○事前評価の指摘を踏まえた評価：  
平成 19 年 9 月 13 日 (総合科学技術会議決定)

<文部科学省における事後評価の経緯>

○事後評価： 平成 25 年 4 月 17 日 (科学技術・学術審議会  
研究計画・評価分科会)

### 3. 事後評価の進め方

事後評価は、「評価に関する本会議決定」及び「総合科学技術会議が事前評価を実施した研究開発に対する事後評価の進め方について」(平成 21 年 1 月 19 日評価専門調査会)に従って、評価専門調査会に評価検討会を設置して調査検討等を行うものとする。

### 4. 検討会メンバー

評価専門調査会長が座長の指名を含め、専門委員数名及び招聘者数名を選任。

### 5. 実施スケジュール (予定)

平成 25 年 5 月 13 日

評価専門調査会

○評価検討会設置の確認

○文部科学省から研究開発概要等の聴取及びそれに対する質疑

平成 25 年 5 月～6 月

評価検討会（2～3 回）

- 評価検討会における調査検討の進め方
- 文部科学省から研究開発成果等の聴取及びそれに対する質疑
- 調査検討のとりまとめの検討

平成 25 年 6 月

評価専門調査会

- 評価検討会の調査結果の報告
- 評価結果案のとりまとめ

平成 25 年 7 月

総合科学技術会議

- 評価結果の審議・決定
- 評価結果を総合科学技術会議議長から文部科学大臣宛に通知等



## 総合科学技術会議が実施する国家的に重要な 研究開発の評価について

平成17年10月18日

総合科学技術会議

### 1. 評価目的

内閣府設置法第26条第1項第3号に基づき、国の科学技術政策を総合的かつ計画的に推進する観点から、総合科学技術会議において大規模な研究開発その他の国家的に重要な研究開発の評価を行い、その結果を公開するとともに、評価結果を推進体制の改善や予算配分に反映させる。

### 2. 評価対象

#### (1) 大規模研究開発

##### ①新規の研究開発（事前評価）

新たに実施が予定される国費総額が約300億円以上の研究開発

##### ②継続中の研究開発（中間評価）

①の評価を実施した研究開発のうち、関係府省等による中間評価の実施状況等を踏まえ評価専門調査会が中間評価の必要を認めたもの

##### ③終了した研究開発（事後評価及び追跡評価）

①の評価を実施した研究開発のうち、研究開発が当該年度の前年度に終了したもの及び評価専門調査会が追跡評価の必要を認めたもの

#### (2) 総合科学技術会議が指定する研究開発

総合科学技術会議が以下の視点等から評価の必要を認め指定する研究開発

- ・ 科学技術や社会経済上の大幅な情勢変化が見られるもの
- ・ 計画の著しい遅延や予定外の展開が見られるもの
- ・ 社会的関心が高いもの（倫理、安全性、期待、画期性等）
- ・ 国家的・府省横断的な推進・調整の必要が認められるもの

指定に当たっては、評価専門調査会が、府省等における対応の状況も踏まえつつ、総合科学技術会議による評価の必要の有無を調査・検討する。

### 3. 評価方法

評価専門調査会が、必要に応じて外部の専門家・有識者を活用し、府省における評価結果も参考として調査・検討を行い、その結果を受けて総合科学技術会議が評価を行う。

### 4. その他

大規模研究開発のうち新規の研究開発については、総合科学技術会議が実施する事前評価における指摘事項への各府省及び研究実施機関の対応状況等について、研究開発が開始された後に評価専門調査会がフォローアップを行う。

## 総合科学技術会議が事前評価を実施した研究開発 に対する事後評価の調査検討等の進め方について

平成 21 年 1 月 19 日  
評価専門調査会決定

総合科学技術会議は内閣府設置法の規定に基づき国家的に重要な研究開発について評価を行うこととされており、その実施に関しては、「総合科学技術会議が実施する国家的に重要な研究開発の評価について」（平成 17 年 10 月 18 日総合科学技術会議決定）（以下、「評価に関する本会議決定」という。）を定めている。この「評価に関する本会議決定」において、事前評価を実施した研究開発が終了した翌年度に事後評価を実施することとされている。

総合科学技術会議がこれまでに事前評価を実施した研究開発は 17 件あるが、平成 19 年度に終了した研究開発があり、また、平成 20 年度以降もほぼ毎年度終了する予定の研究開発があることから、平成 20 年度から順次前年度に終了した研究開発に対して事後評価を実施する。

これを効果的かつ効率的に実施するため、評価専門調査会における調査検討等は以下のとおり実施する。

### 1. 事後評価の目的

総合科学技術会議が事前評価を実施した研究開発に対する事後評価（以下、「総合科学技術会議が実施する事後評価」という。）は、総合科学技術会議が実施した事前評価の結果やそのフォローアップの結果等を踏まえた実施状況等を検証し、その結果を公表することにより総合科学技術会議としての説明責任を果たすとともに、担当府省等による当該研究開発成果の施策への活用や、次の段階の研究開発への展開等を促進することを目的として実施する。

### 2. 実施時期

総合科学技術会議が実施する事後評価は、対象とする研究開発が終了した翌年度に実施する。

なお、研究開発成果の創出や社会・経済等の動向等を踏まえ、当該研

究開発に対して終了前に評価することが必要と認められる場合には、「評価に関する本会議決定」に基づく中間評価や指定評価の仕組みを活用して評価を実施する。

### 3. 実施体制

評価は、評価専門調査会に評価検討会を設置して調査検討を行い、その結果を踏まえて評価専門調査会が評価結果案のとりまとめを行う。それを総合科学技術会議において審議し、決定する。

評価検討会における評価結果の調査検討に際しては、その結論等に対する、実施府省の見解等を聴取した上でとりまとめを行う。

評価検討会の委員は、評価専門調査会に属する総合科学技術会議の議員及び専門委員の中から評価専門調査会会長が指名した者（座長として指名した者を含む。）及び同会長が調査検討に必要と認めて選考した外部の専門家・有識者等とする。この場合、外部の専門家・有識者等の選考に関して、評価専門調査会に属する総合科学技術会議の議員及び専門委員は会長に意見を提出することができることとする。

### 4. 調査検討する事項

評価の調査検討は、次の基本的な事項について、実施府省の事後評価結果等の自己点検結果を活用して行う。具体的な調査検討事項は、対象とする研究開発の内容等を踏まえて、それぞれの研究開発ごとに決定する。

- ① 総合科学技術会議が実施した事前評価やそのフォローアップの結果等において当該研究開発の目標とした事項に関連した成果及びそれ以外の成果
- ② 当該研究開発で得られた成果について、関連行政施策や研究開発施策等への活用状況
- ③ 総合科学技術会議が実施した事前評価やそのフォローアップの結果等において科学的・社会的・国際的な意義とした事項等についての効果
- ④ 総合科学技術会議が実施した事前評価やそのフォローアップの結果等において妥当または改善すべきとされた実施計画（実施機関の選定や細目課題への資源配分などを含む）の遂行状況
- ⑤ 総合科学技術会議が実施した事前評価やそのフォローアップの結果



等において妥当または改善すべきとされた府省の推進体制の整備状況や評価の実施状況

## 5. 評価の実施

### (1) 当該研究開発の成否の判定

4. の調査検討結果をもとに、評価対象研究開発の特性等を踏まえて、
- ア) 当該研究開発の目標の達成状況の判定
  - イ) 科学技術的・社会経済的・国際的な効果の判定又は今後の波及効果の見込み
  - ウ) 研究開発マネジメントの妥当性の判定
- などを見極め、これらにより当該研究開発の成否を判定する。

### (2) 今後の課題等の検討

(1) の結論についての要因分析等を実施し、成果の活用や研究開発の推進体制の整備等に当たっての課題等を検討する。

## 6. 評価結果の活用

- (1) 評価結果を総合科学技術会議議長から実施府省の大臣あてに通知し、
- ① 研究開発の特性等に応じてその成果を関連施策に有効に活用すること
  - ② 評価を通じて明らかとなった実施府省における研究開発推進上の課題等についての改善方策を同府省が実施すること
- 等を促進する。
- (2) 評価結果は総合科学技術会議のホームページ等で公表する。